

令和元年度京都市いきいき市民活動センターに係る管理運営についての評価報告

令和2年10月

京都市市民活動センター評価委員会

令和元年度における京都市いきいき市民活動センターの管理運営に関し、下記のとおり評価を取りまとめたので公表する。

記

1 評価に当たって

(1) 評価委員会の設置目的

京都市市民活動センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、京都市が設置した機関であり、京都市市民活動総合センター及び京都市いきいき市民活動センターの管理運営全般に関し、各種事業の実績等に基づいて客観的な評価を行い、課題の解決や改善すべき事項についての助言を行うことを目的の一つにしている。

当評価委員会は、平成15年度から京都市市民活動総合センターの施設運営全般についての評価を行ってきたが、平成23年4月に京都市いきいき市民活動センターが開所されたことに伴い、評価機能を京都市いきいき市民活動センターまで拡充するとともに名称を改めたものである。

(2) 京都市いきいき市民活動センターの役割

京都市いきいき市民活動センターは、市民公益活動はもとより、サークル活動など市民活動を幅広く支援していくため、既設の京都市市民活動総合センターを補完し、市民がいきいきと活動できる場所と機会を提供する施設として、旧コミュニティセンター施設を転用する形で、平成23年4月に設置されたものである。

京都市いきいき市民活動センターでは、貸館の提供や市民活動の活性化に資する情報の提供を行うほか、地域や市民活動を活性化させるための仕掛けとして、指定管理者が独自にこれらに資する事業（市民活動活性化事業）を企画・実施することとしている。

この市民活動活性化事業の対象となるものは、

- ・市民活動又は地域コミュニティの活性化を図るための事業
- ・市民活動を支援するための各種講座や研修会等

としており（市民活動活性化事業実施要綱第7条第1項）、

企画・実施については、可能な限り、地域や利用者等からの意見を取り入れながら行うものとし、将来的には企画段階から地域や利用者等の参加を促進する等、協働の取組により進めるものとしている（市民活動活性化事業実施要綱第4条第2項）。

(3) 評価について

ア 評価の基準

第3期指定管理期間（令和元年～3年度）の初年度となる令和元年度の各センターの活動について、「市民活動活性化事業」の取組内容に関する評価を行うとともに、

センター運営に関して、「貸館事業」、「情報の発信」、「業務執行体制」に関する評価を行う。

評価項目	主な着眼点
市民活動活性化事業	○計画の具体性及び独創性 ○幅広い市民の交流を目的として、広く市民の参加が得られるよう努めているか。 ○地域、利用者及びNPOなど他団体との連携 ○事業の広報方法 ○利用者ニーズの把握及び次回事業への反映の方法
貸館事業	○貸館業務を適正に行っているか。 ○公金収納業務を適正に行っているか。
情報の発信	○情報の発信を積極的に行っているか。
業務執行体制	○施設の維持管理を適正に行っているか。 ○職員配置の適正性及び人材育成等 ○管理運営業務に係る経費の取扱い

イ 評価の参考とした資料等

① 市民活動活性化事業

令和元年度に実施された全事業を対象として、事業報告書を基に評価する。

② 貸館事業

京都市が実施した業務及び財務監査内容、事業報告書を基に評価する。

③ 情報の発信

事業報告書を基に評価する。

④ 業務執行体制

京都市が実施した業務及び財務監査内容を基に評価する。

なお、評価については、監査時点での業務執行に係るものである。

ウ 評価方法

各センターの評価に当たり、施設規模、地勢、交通利便性、人口構成、歴史的経過等の立地条件や指定管理者の特長等、施設管理運営上の条件がそれぞれ多様であることから、評価委員会による一律の評価軸で評価を行うことは困難であると判断し、センターごとに、評価項目について、文章による記述の評価を行う。

評価については、平成30年度の評価を受けて令和元年度にどのように進展したかという点を踏まえ、センター運営の質の向上につながることを主眼に、評価できる事項、課題となる事項などについて意見を付すこととした。

また、現指定管理期間の今後約2年間の更なる取組の発展に向けて、各センターに対して、「令和2年度に向けた助言等」について記載した。

2 各センターの評価

(1) 北いきいき市民活動センター

(指定管理者：特定非営利活動法人くらしネット21)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・「楽し夏まつり」では、大学等との連携による実行委員会形式での企画により、市民の主体的な活動の活性化に貢献していることが評価できる。 ・「まちあるき映像企画」による施設や地域の魅力発信に積極的に取り組んでおり市民活動の促進に努めている。
貸館事業	・施設の利用件数については、様々な形での情報発信や貸出し物の拡充、図書ルームの設置などに努められた結果、スポーツ利用を目的とする若年層を中心とした新規利用者を獲得しており、利用件数全体としても前年度と比較して増加している。 ・利用者満足度は、来館者に対する窓口サービス調査の結果、施設の整理整頓について改善の余地があるものの、概ね良好である。 ・公金収納業務については、処理の不備がいくつか見受けられたため、書類作成時のチェック体制等の改善に努めてもらいたい。
情報の発信	・施設案内パンフレットやホームページ、フェイスブック、ツイッターに加えて、ラジオ出演を行うなど、多様な媒体を活用した情報発信に取り組んでいる。 ・事業の内容をYOUTUBE動画としてアップすることで、施設や地域の魅力を広く一般にPRしている。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置については、概ね問題なく行われている。 ・収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を行っているが、今後、より効率的な経費執行に期待したい。

イ 令和2年度に向けた助言等

- ① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般
 - ・大学生を巻き込んだ事業の企画運営などが更に展開される取組を期待する。
 - ・夏まつりについて、地域の方やセンターの利用者、様々な団体と積極的に交流・連携しているが、今後はセンター主導のイベント等の企画・実施から、参加者等の主体的な運営にシフトしていくための人材の育成を期待する。
 - ・地域や施設の魅力発信に取り組む事業は、他のセンターでも同様のものがあるため、センター間においても連携しながら地域間の交流が図られることを期待する。
 - ・事業の実施に当たり、ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。
- ② 施設管理等
 - ・情報の発信については、今後もターゲットに合わせた多様な媒体を活用して、発信内容を適宜見直しながら、施設や事業の情報をより幅広い層に広域的に発信する取組を続けていただきたい。
 - ・楽只小学校跡地に入居する各団体とのつながりを意識しながら、移転を見据え地域内外の関係団体との連携にも積極的に取り組み、市民活動の支援や活性化に取り組む「いきいき市民活動センター」としてのイメージの創出・浸透に努めてもらいたい。

(2) 岡崎いきいき市民活動センター

(指定管理者：特定非営利活動法人音の風)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・指定管理者の得意分野である歌や音楽を活かして、利用団体と連携し幅広い年齢層に向けた事業を実施している。 ・「リブライブ」や「イベント企画」においては、交流だけでなく引きこもりや依存症といった社会問題についての理解も深めることができ、有意義な取組であると評価できる。 ・センターの施設及びその周辺を効果的に活用して事業を企画・実施しており、今後も地の利を活かして岡崎地域の各種団体と連携を深め、市民活動の活性化に取り組んでもらいたい。
貸館事業	・施設の利用件数については、前年度比で横這いとなっているが、利用時間数としては若干増加している。 ・利用者満足度は、来館者に対する窓口サービス調査の結果、概ね良好で、丁寧な対応が好評であった。案内表示に関する改善も見られた。 ・公金収納業務については、細かな処理の不備はあったものの、概ね適正に行われている。
情報の発信	・施設案内パンフレットやイベントに関する広報物などにおいて、チラシ作成のノウハウを活かし、見る人に興味を与えられるようデザインが工夫されている。 ・ホームページ、フェイスブック、ツイッターのほか、京都新聞「まちかど」や市民しんぶん区版など、多様な媒体を活用した情報発信に取り組んでいる。 ・WEBサイトによる広報活動に関しては、ブログを廃止しホームページに重点を置き、見やすさを重視したデザインやSNSの使い分けによる効果も表れてきており、今後も発信力の向上が期待できる。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置については、概ね問題なく行われている。 ・収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っているが、これまでの経験を活かし、施設の魅力をより高める分野への経費執行にも期待したい。

イ 令和2年度に向けた助言等

① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般

- ・市民活動活性化事業において、チラシ作成の方法や利用団体の紹介など、市民活動団体を広報面で支援する事業を展開することで、利用団体自身の広報力強化につなげており、今後も団体の自主的な活動を活発化する取組を期待する。
- ・指定管理者の得意分野である音楽というジャンルを更にカテゴリー（見る、聞く、参加する等）別に発信していくなどの工夫を検討するとともに、今回取り組まれていた社会問題などにも焦点を当てながら、幅広い分野での市民活動の担い手の育成に向けて、センター利用者や地域の団体、大学生等と連携した取組を期待する。
- ・事業の実施に当たり、ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。

② 施設管理等

- ・情報の発信については、デザイン性に優れたホームページやSNSでの発信により、常に最新の情報が提供されている。引き続き、京都新聞「まちかど」や市民しんぶんなどの紙媒体での発信、チラシラック・掲示板の設置なども含め、幅広い層に情報を発信していただきたい。

(3) 左京東部いきいき市民活動センター

(指定管理者：特定非営利活動法人劇研)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・他のセンターとの連携など、それぞれのセンターの強みを活かしながら、体験ができる親子向けのワークショップなど、工夫した企画による事業展開がされている。 ・「錦林盆踊り大会」において地域の各種団体と連携し、多種多様な市民が交流する機会が生まれているほか、外国人との交流を目的とした多文化共生促進の取組が展開されていることは評価できるが、地域に暮らす外国人との連携がさらに進むことも期待したい。
貸館事業	・利用目的ごとの特徴に応じ、施設の周知活動や時間帯等の調整による円滑な利用の促進に努められており、施設の利用件数は、前年度と比較して大幅に増加している。 ・利用者満足度は、来館者に対する窓口サービス調査の結果、施設の広報物の掲示について改善の余地があるものの、概ね良好である。 ・公金収納業務については、細かな処理の不備はあったものの、概ね適正に行われている。
情報の発信	・様々な団体と連携しての事業実施による施設認知度向上の取り組みのほか、SNSによる情報発信や、「いきいき通信」の発行など、多様な媒体を活用することで、幅広い層をターゲットとする情報発信に取り組んでいる。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置については、概ね問題なく行われている。 ・収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っているが、より正確な収支見通しのうえで経費が執行されることを期待したい。

イ 令和2年度に向けた助言等

- ① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般
 - ・盆踊りなどの地域団体と協働した事業の今後の展開として、事業への参加団体が主体的に活動を展開し、運営してく形に移行できるよう、企画・運営の手法を伝播させていくような取組を期待する。
 - ・多文化共生促進事業やワークショップ開発事業などの継続実施に加えて、地域性を活かし、外国人を含めた地域住民や留学生、それらに関係する団体を巻き込んで、市民活動の更なる発展に向けた事業に取り組んでいただきたい。
 - ・事業の実施に当たり、ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。
- ② 施設管理等
 - ・情報の発信については、フェイスブック、ホームページ、「いきいき通信」の発行等により広域的に幅広い層へ情報を発信していただきたい。
 - ・演劇という得意分野と充実した施設の特徴を活かしつつも、新規利用者に向けた広報にも注力し、新たな関心層の発掘に取り組んでいただきたい。

(4) 左京西部いきいき市民活動センター

(指定管理者：特定非営利活動法人劇研)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・指定管理者の得意分野である演劇という視点にとらわれず、高齢者の居場所づくりなど地域課題全般に問題意識を持ち、回想法やワークショップといった様々な手法で事業展開がなされている。 ・お祭りやワークショップの開催によって、地域の内外の各種団体との連携や交流が図られ、参加者による自主的な活動や、次期運営への参加希望にもつながっている。 ・高齢者食堂や子ども食堂といった事業は、引きこもりがちな高齢者に活動の場を提供するとともに、世代間交流も図られる点が評価でき、継続してもらいたい。
貸館事業	・施設の利用については、近年横這いで推移しているものの、高い利用件数を維持し、文化・芸術をはじめとする様々な用途の利用が定着している。 ・利用者満足度は、来館者に対する窓口サービス調査の結果、概ね良好で清掃等利用環境の整備について高評価であった。 ・公金収納業務については、概ね適正に行われている。
情報の発信	・幅広い年齢層に情報を伝達するために、広報誌「いきいき通信」、ホームページ、フェイスブック、ツイッターなど、多様な媒体を活用している。 ・お祭りのチラシ等広報物のイラストやデザインは、昨年同様魅力的な内容となっている。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置については、概ね問題なく行われている。 ・収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っているが、これまでの経験を活かし、施設の魅力をより高める分野への経費執行にも期待したい。

イ 令和2年度に向けた助言等

- ① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般
 - ・実行委員会形式で実施されているお祭りが、事業規模も拡大しており、センター主導から地域団体主体での開催となるよう、運営手法の構築や担い手となる人材の育成がされることを期待する。
 - ・他のセンターや他の分野の関係団体とも積極的に連携し、既存の事業や地域の市民活動を広く発信し、全市的な取組につなげていかれることを期待する。
 - ・今後も指定管理者の強みである演劇を活かしながら、事業の更なる発展を期待する。
 - ・事業の実施に当たり、ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。
- ② 施設管理等
 - ・情報の発信については、フェイスブックやツイッターでの情報発信に加えて、広報誌の定期的な発行など、今後も継続した取組を期待する。
 - ・イベント等の事業以外に関する情報の発信についても、取材力を強化することで、更に充実した取組が展開されることを期待する。

(5) 中京いきいき市民活動センター

(指定管理者： 特定非営利活動法人あかしやふれあいネットワーク)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・地域住民，地域団体，センター利用者，近隣の高校などと交流・連携しながら，実行委員会形式による企画・運営により事業を実施することで，幅広い年齢層がつながりを持ち活動を発展させている。 ・施設の利用団体の交流や発表の場の提供を目的とする各事業について，アンケート等を踏まえた改善を行いつつ継続的に実施することにより，市民活動の活性化に進捗がみられる点については評価できる。
貸館事業	・施設の利用件数については，近年横這いで推移してきているが，更なる利用の促進に向けた取組に期待する。 ・利用者の満足度は，来館者に対する窓口サービス調査の結果，施設の案内表示や清掃について改善の余地があるものの，概ね良好である。 ・公金収納業務については，細かな処理の不備はあったものの，概ね適正に行われている。
情報の発信	・施設案内パンフレットやホームページなどを活用した情報発信に取り組むとともに，昨年度からは，いきいき通信により利用団体の紹介にも努めている。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置については，概ね問題なく行われている。 ・収支状況については，管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っているが，これまでの経験を活かし，施設の魅力をより高める分野への経費執行にも期待したい。

イ 令和2年度に向けた助言等

- ① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般
- ・連携する団体の固定化に留意しつつ，地域の各種団体や他のNPO法人と交流・連携を図り，幅広い地域を対象とする事業の実施により，市民の自発的な活動の支援に取り組んでいただきたい。加えて，相乗効果による新規利用者の獲得や新たな事業の発展も期待する。
 - ・活動の活性化に加えて，今後は団体間の連携のサポートや団体が主体的に行う活動の後方支援的な役割についても期待したい。
 - ・事業の実施に当たり，ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。
- ② 施設管理等
- ・貸館事業については，交通アクセスの良い立地を活かして，市内全域からの施設利用者を獲得できるよう施設の周知や魅力ある事業企画に努めるなど，利用件数の増加に注力いただきたい。
 - ・情報の発信について，事業の広報や施設認知度の向上のためにも，センターが令和2年度の取組として設定しているSNSによる情報発信に取り組んでいただきたい。

(6) 東山いきいき市民活動センター

(指定管理者：有限責任事業組合まちとしごと総合研究所)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・地域防犯，子育て世代の社会復帰といった地域課題の発見や市民参加型のワークショップによるコミュニティの活性化に資する事業が展開されている。 ・「みんなの学校ごっこ」での地域住民が持つ趣味，職業スキルを活かした取組や，「Social Echoes」でのインターネットを活用した情報発信に関する取組は，市内全域から参加者を獲得しており，その効果が市民や地域に還元される点が評価できる。
貸館事業	・施設の利用件数については，相談窓口の強化や助成金情報の発信をきっかけとした新規団体の設立などの効果もあって，登録団体が増加したことにより，前年度に比べ増加している。 ・利用者満足度は，来館者に対する窓口サービス調査の結果，概ね良好である。 ・公金収納業務については，細かな処理の不備はあったものの，概ね適正に行われている。
情報の発信	・施設案内パンフレットやホームページ，SNS，事業告知の動画CMなど，多様な媒体を活用した情報発信に取り組んでいる。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置については，概ね問題なく行われている。 ・収支状況については，管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っているが，これまでの経験を活かし，施設の魅力をより高める分野への経費執行にも期待したい。

イ 令和2年度に向けた助言等

- ① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般
 - ・「いきいき市民活動センター」の地域への浸透や地域課題の発掘といった事業実施における課題として認識していることについて，地域団体をセンター主導の事業に企画・運営の段階から巻き込むことによって，地域の市民活動がより活性化されていく事業展開を期待する。
 - ・得意分野であるメディアに関連する事業のほか，指定管理者の豊富なネットワークを活かした事業を企画し，参加対象者を市内全域に拡大して，幅広い層に向けた事業展開が行われることを期待する。
 - ・複数のセンターの指定管理者である強みを活かして，下京，伏見との連携による事業展開などにも取り組むことにより，事業規模などの更なる強化が期待できる。
 - ・事業の実施に当たり，ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。
- ② 施設管理等
 - ・貸館業務については，交通の利便性が非常に高く，市内一円からの利用が見込まれる立地環境であり，市民の利用ニーズは高いと思われる。今後はセンターが外国人も巻き込んだ市民活動の場として活用されることにも期待する。
 - ・情報の発信については，フェイスブックやツイッターにより，常に最新の情報提供が行われており，継続した取組を期待する。

(7) 下京いきいき市民活動センター

(指定管理者：有限責任事業組合まちとしごと総合研究所)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・地域住民や大学生とも連携した取組を行っており、施設利用者の増加にもつながっていることは評価できる。 ・新たな指定管理者として市民活動の情報誌・WEBサイト制作は効果的な取組であり、SDGsを題材に時勢に応じた展開となっている。
貸館事業	・施設の利用件数については、団体登録制を導入し、利用者間交流などの工夫した集客活動に努めたことにより、空調の故障による稼働停止期間があったにもかかわらず、前年度と比較して大きく増加した。 ・利用者の満足度は、来館者に対する窓口サービス調査の結果、案内表示について改善の余地があるものの、概ね良好である。 ・公金収納業務については、処理の不備がいくつか見受けられたため、書類作成時等のチェック体制等の改善に努めてもらいたい。
情報の発信	・手に取りやすい情報冊子の発行による情報発信に取り組まれたことは評価でき、今後はより広く配布されるための工夫に期待する。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置については、概ね問題なく行われている。 ・収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を行っているが、令和元年度の経験を活かし、より効率的な施設運営に資する経費執行に期待したい。

イ 令和2年度に向けた助言等

① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般 ・今後も利用者のニーズや周辺地域の実情把握等に努め、地域の特性を活かした活動の実施や人脈の構築に積極的に取り組んでいただきたい。 ・地域の各種団体、センター利用者、大学、NPO法人等の他団体との連携をさらに促進し、SDGsを切り口とした連携の拡大にも取り組むことで地域内外の人・団体をつないでいく役割を担っていかれることを期待する。 ・事業の実施に当たり、ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。 ② 施設管理等 ・立地の良さを活かし、市内全域から施設利用者や協力団体を獲得するための更なる取組を期待する。 ・情報の発信については、令和元年度の取組を振り返り、事業手法の更なる発展や収集した情報の蓄積、効果的な周知・活用に注力されることを期待する。
--

（８）吉祥院いきいき市民活動センター

（指定管理者：特定非営利活動法人ふれあい吉祥院ネットワーク）

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・事業を実行委員会形式で運営することにより、参加者・団体同士の連携や交流、活動の担い手の育成に努めている点が評価できる。 ・活性化事業としてセンターが支援している事業を、地域団体主体で開催できるよう支援の幅を広げており、「市民の主体的な活動を支援する」というセンターの趣旨に合致した取組がなされている。 ・子どもから高齢者、外国人といった幅広い層が参加・交流できる多様な事業が展開されている。
貸館事業	・施設の利用件数については、前年度と比較して増加しており、新規利用者についても、単発利用が多いものの、一定の増加が図られている。 ・利用者満足度は、来館者に対する窓口サービス調査の結果、概ね良好である。 ・公金収納業務については、概ね適正に行われている。
情報の発信	・施設案内パンフレットやホームページ、SNSなどを活用した情報発信に取り組んでいる。 ・「いきセンだより」をはじめとする各広報物についても、事業毎に過去のイベント写真を掲載するとともに事業の内容をわかりやすく紹介することで、各事業に興味を持ってもらえるような工夫がされている。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置については、概ね問題なく行われている。 ・収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っているが、これまでの経験を活かし、施設の魅力をより高める分野への経費執行にも期待したい。

イ 令和２年度に向けた助言等

① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般 ・ふれあいジャンボリーなど、実行委員会形式で実施していることは評価できるが、今後はセンターのバックアップなしで地域の活動団体が自主的、自立的に事業を開催できるよう、これまでの地域団体との連携を生かした「次の展開」に取り組まれることを期待する。 ・多くの外国人が居住している地域であることを活かし、地域の身近な外国人にも目を向けた国際交流事業の展開にも期待したい。 ・地域の小中学校やPTA、児童館等と連携した事業が多く展開されるとともに、事業の担い手育成にも努められており、今後は事業の企画段階から次世代の担い手となる若者を実行委員会等の主要メンバーとして事業運営していくことも検討いただきたい。 ・事業の実施に当たり、ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。 ② 施設管理等 ・貸館事業については、平成30年度に引き続き、前年度に比べ利用件数が増加している。部屋数が少ないハンデはあるものの、利用団体間の交流により市民活動を活性化するなどして、更なる新規利用者の獲得にも注力していただきたい。 ・施設や市民活動に関する情報発信について、常連参加者に偏ることなく参加者を広げるため、新規参加者に注力して広報を行うなどの工夫にも努めていただきたい。

(9) 上鳥羽北部いきいき市民活動センター

(指定管理者：京都市中唐戸児童館運営委員会)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・上鳥羽南部と合同実施の「上鳥羽春まちフェスタ」に加え、吉祥院の「ふれあいひろば」への参加など、センター同士が協力・連携して事業を実施した点は評価できる。 ・従前からの強みであるエコイベントに関しても、太陽光パネルを活用したエコ活動に加え、「とばベジマルシェ」として新規事業を実施したほか、「上鳥羽夏の夜市」では、実行委員会を立ち上げ、地域団体や若い世代との連携による実施など、事業を次の段階に発展させていることは評価できる。
貸館事業	・施設の利用件数については、他センターとも協力し、利用団体の紹介などによる情報発信に努めたことにより、前年度と比較して増加している。 ・利用者満足度は、来館者に対する窓口サービス調査の結果、案内表示について改善の余地があるものの、概ね良好である。 ・公金収納業務については、適正に行われている。
情報の発信	・施設案内パンフレットやホームページ、フェイスブック、広報誌「ニュースレター」、市民しんぶんへの掲載など多様な媒体を活用した情報発信に取り組んでいる。 ・事業広報だけでなく、新型コロナウイルスにより施設に来館できない状況下でのSNSによる情報発信にも注力されていた。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置については、概ね問題なく行われている。 ・収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っているが、これまでの経験を活かし、施設の魅力をより高める分野への経費執行にも期待したい。

イ 令和2年度に向けた助言等

- ① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般
 - ・引き続き、水平的連携や地域内連携により、市民活動の活性化に積極的に取り組まれることを期待する。
 - ・今後は、センター間での連携にとどまらず、利用団体ともネットワークを構築し、新たな事業が展開されていくことを期待する。
 - ・事業の実施に当たり、ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。
- ② 施設管理等
 - ・情報の発信については、SNSによる発信に注力されており、他のセンターの事例も参考にしつつ、新型コロナウイルス等現在の状況下での地域内の情報収集・発信の更なる改善に期待したい。
 - ・貸館事業については、交通の便がよい立地にもかかわらず、地道な取組により利用件数を増やしており、引き続き、様々な機会を捉えて、利用者増に向けた取組に注力していただきたい。

(10) 上鳥羽南部いきいき市民活動センター

(指定管理者：株式会社丸起)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・児童館や上鳥羽北部といった他施設や、地域のカウンターパートナーとの連携による事業が展開され、規模も拡大し、参加者満足度も高い点が評価できる。一方で、連携する団体の固定化に留意し、多様な地域団体との連携を進めてもらいたい。 ・サークル同士の交流イベントなど、それぞれの団体の紹介や展示の場を設けることで、地域の市民活動の場としての定着を実感できる。
貸館事業	・施設の利用件数については、児童館、学校等の他施設と連携した事業の実施や施設の周知に努めた結果、近年、増加傾向にある。 ・利用者満足度は、来館者に対する窓口サービス調査の結果、概ね良好であり、丁寧な対応が好評であった。 ・公金収納業務については、細かな処理の不備はあったものの、概ね適正に行われている。
情報の発信	・施設案内パンフレットやホームページ、フェイスブックによる情報発信に取り組んでいる。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置については、概ね問題なく行われている。 ・収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っている。

イ 令和2年度に向けた助言等

- ① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般
 - ・「フェスティバル」や「夏まつり」などにおいて、センター提供型から参加団体や地域団体が運営に参加し作り上げる仕組みの導入を期待する。
 - ・新たな団体と協力・連携して事業が展開されたことは評価できる。今後は、連携する団体の固定化に留意しつつ他のセンターや多様な地域団体と連携を図り、より広域的に事業を展開していくとともに、事業の企画・運営から協働していくことを期待する。
 - ・地域団体等の自主的な事業展開を支援するため、他センターの取組等を参考に人材育成を目的とした事業の実施を期待する。
 - ・事業の実施に当たり、ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。
- ② 施設管理等
 - ・情報の発信については、センター利用者や事業参加者の潜在的な可能性を引き出すため、ホームページ等における情報の充実を図り、他のセンターの事例も参考にしつつ、地域内の情報収集・発信の更なる改善に期待したい。

(11) 久世いきいき市民活動センター

(指定管理者：地域環境整備みどりの会)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・交通利便性の面でハンデがある中で、センター利用者や近隣の児童館・保育所等と連携した事業の実施により参加者を獲得している点は評価できる。 ・高齢者、親子、子ども向けの事業を主として、児童館等地域の諸団体と連携しながら実施した点は評価できる。ただし、対象が偏らないよう、新たな事業の展開や拡充にも取り組んでもらいたい。
貸館事業	・施設の利用件数については、情報発信による施設の周知や事業の実施による集客活動に努めているが、前年度と比べると減少し、近年は横這い傾向となっている。 ・利用者満足度は、来館者に対する窓口サービス調査の結果、施設の整理整頓について改善の余地があるものの、概ね良好である。 ・公金収納業務については、概ね適正に行われている。
情報の発信	・施設案内パンフレットやホームページ、SNSなどを活用した情報発信に取り組んでいるが、見る人により興味を持ってもらえるようなデザインや内容とする等、更なる改善が見込めると考える。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置基準については、概ね問題なく行われている。 ・収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っているが、これまでの経験を活かし、情報発信をはじめとする施設の利用をさらに促進するための経費執行にも期待したい。

イ 令和2年度に向けた助言等

① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般

- ・保育所や児童館との連携により、子ども達を対象とした事業を行うことで、保護者である若い世代を積極的に巻き込むことに成功しており、今後は、それ以外の年齢層や地域外からの参加も見据えた広域的な新規事業の展開や利用者確保に向けた取組を期待する。
- ・単発での参加や協力の機会を提供するイベント等だけではなく、協働した企画・運営や事業後の継続的な団体等の連携が可能となるような仕組みの構築とともに、市民の自発的な活動につながるような後方支援にも注力していただきたい。
- ・他のセンターとの交流について、親睦に留まることなく、視察や意見交換により事業の成功例を聴き取るなど、センター間での情報共有に努め、連携・協働を進めるなど、今後の取組に活かしてもらいたい。
- ・事業の実施に当たり、ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。

② 施設管理等

- ・交通利便性等の立地条件に制約はあるが、利用者の年齢層などを踏まえニーズに応じた媒体を活用した広報を実施するなどにより、利用が少ない部屋や時間帯についても一定の利用者を獲得できるよう、施設の利用件数増に向けた取組を積極的に行っていただきたい。
- ・情報発信について、他のセンターの事例も参考にしつつ、地域内の情報収集・発信の更なる改善に努めていただきたい。

(12) 醍醐いきいき市民活動センター

(指定管理者：株式会社ワン・ワールド)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・働く現役世代も含めた幅広い年齢層を対象に、フィールドワークやトレジャーハンターを実施しており、世代間の交流が図られるとともに、地域の潜在的な関心層の発掘により地域全体の活性化に資する事業となっていることは評価できる。 ・健康長寿事業や多世代・地域つながり事業では、参加者が主体的に運営に関わる仕組みとなっており、市民の自発的な活動を支援する取組となっている。 ・「だいが夜カフェ」などは、既存事業の内容を見直し、参加対象を広げるための工夫がされている。
貸館事業	・施設の利用件数については、交通アクセスが決して良いとは言えない立地条件にもかかわらず、利用形態に応じたレイアウトの変更や様々な形での情報発信による施設の周知により、新規利用者也獲得し、前年度と比較し大幅に増加している。 ・利用者満足度は、来館者に対する窓口サービス調査の結果、概ね良好である。 ・公金収納業務については、適正に行われている。
情報の発信	・施設案内パンフレットや広報誌「だいがいきいきタイムズ」でまちの活性化につながる地域資源を発信するほか、ホームページ、フェイスブックなど、多様な媒体を活用した情報発信に取り組んでいる。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置については、概ね問題なく行われている。 ・収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っているが、これまでの経験を活かし、施設の魅力をより高める分野への経費執行にも期待したい。

イ 令和2年度に向けた助言等

- ① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般
 - ・引き続き、利用者や地域住民が主体となったイベント企画等への支援により、市民活動がより活発となるよう、柔軟な企画・運営に取り組まれることを期待する。
 - ・これまでの事業に加えて、ユニークかつ市民を巻き込んだ新たな事業展開にも注力していただきたい。
 - ・事業の実施に当たり、ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。
- ② 施設管理等
 - ・情報の発信については、ホームページやフェイスブックなどの多様な媒体により常に最新の情報を発信することに取り組まれており、今後も継続した取組を期待する。
 - ・口コミや地域内の人脈を通じた情報発信など、センターが得意とする発信方法については、変容を求められる社会情勢もあり、それを踏まえた地域内の情報収集・発信の更なる改善に期待したい。

(13) 伏見いきいき市民活動センター

(指定管理者：有限責任事業組合まちとしごと総合研究所)

ア 令和元年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動活性化事業	・高齢者の孤独化や子どもの貧困問題など、地域の課題に対して地域や学生などの様々な団体と連携して取り組んでおり、専門性を活かしながら、団体間の連携により新たな事業も生まれていることは評価できる。 ・事業実施に当たっては、市民の主体的な活動を後方から支援するというセンターの本来の役割を意識して取組を進めており、長期的伴走的に関わることで良好な関係を構築していることは評価できる。
貸館事業	・施設の利用件数については、前年度と比較し減少しているものの、利用団体の登録数は大きく増加し、様々な形での情報発信などによって、稼働率の確保に努めている。 ・利用者満足度は、来館者に対する窓口サービス調査の結果、概ね良好で、丁寧な応対が好評である。 ・公金収納業務については、細かな処理の不備はあったものの、概ね適正に行われている。
情報の発信	・施設案内パンフレットやホームページ、フェイスブック、ツイッター、掲示板の設置など、情報の受け手に合わせた多様な媒体を活用した情報発信に取り組んでいる。 ・情報誌「おむすび」では、より地域の方に親しみやすいローカル情報を多く掲載するなど、周辺地域の魅力も含めて発信する内容となっている。
業務執行体制	・施設の維持管理及び職員の配置基準については、概ね問題なく行われている。 ・収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っている。

イ 令和2年度に向けた助言等

- ① 市民活動活性化事業をはじめとする事業全般
 - ・思わず参加したくなるような企画でのアプローチや、地域住民の得意分野を共有する場の提供など、地域に根差した活動となっており、今後も継続して取り組んでいただきたい。
 - ・他のセンターとの連携による企画など、新たな事業展開にも注力されるよう取り組んでいただきたい。また、シニアの居場所づくり事業など、高齢者の活動の継続に向けた取組は、他のセンターのモデル事業として更に充実させてもらいたい。
 - ・高齢化や貧困といった地域課題に取り組む事業については、関係する専門機関との連携も検討していただきたい。
 - ・事業の実施に当たり、ウィズコロナに対応するための工夫や対策を検討していただきたい。
- ② 施設管理等
 - ・情報の発信については、フェイスブックやツイッターで常に最新の情報提供が行われ、施設認知度の向上が図られていると考えられるが、情報誌等他の媒体と合わせて更に充実を図り、利用者数の増加につながる取組を期待する。

3 まとめ

(1) 施設の利用状況について

いきいき市民活動センター（以下「センター」という。）は、平成23年度の開設から9年目となり、この間、各センターでは、施設案内パンフレットやホームページ、各種SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した情報の発信、市民活動に資する情報の提供、市民活動活性化事業の実施など、指定管理者の特長や地域性に応じた独自の活動に積極的に取り組んできた。

その結果、貸館利用件数は、開設以来、年々増加しており、令和元年度の件数は、センター転用前の平成22年度と比較すると、約4.5倍と大幅に増加している。

これは、指定管理者による積極的な広報活動や市民活動支援の取り組みによる施設認知度の向上により、市民活動や地域活動に取り組む様々な団体の活動拠点として定着してきた結果である。

ただし、個々の施設の状況を見ると、利用件数が9年間で10倍以上増加した施設がある一方で、立地条件等により利用件数が伸び悩んでいるところもあるなど、施設の利用状況に差が生じている。

このことからセンターとして、真に市民生活、市民活動を総合的に支援する施設へと進化していくため、この評価報告書のほか、令和2年3月に提出した「京都市いきいき市民活動センターの在り方について 答申」の内容も含めて、次期指定管理募集に向け、京都市において必要な見直しを行われることを期待する。

(2) 管理運営全般に対する評価及び助言について

各センターにおいては、「2 各センターの評価」のとおり、各センターが継続して発展していくための改善や工夫・充実を期待する。

第3期指定管理期間の初年度となる令和元年度は、各センターの特徴を活かした独自性の高い新規事業に取り組まれるとともに、行政区をまたいでセンター同士が合同で事業を実施するなど、各センター同士の連携がより深まった。

指定管理期間の2年目となる令和2年度は、これまで培ってきたノウハウや利用団体及び地域とのつながり、指定管理者の得意分野や専門分野の強みを最大限に活かし、引き続き、利用者のニーズや地域の実情把握等に努めながら、施設のコンセプトである地域や施設利用者との「交流」・「協働」を通じ、それぞれが特色ある施設へと更に「進化」することを目指し、以下の項目について重点的に取り組んでいただきたい。

ア 全般について

各センターの取組について、地域住民に対するサービスの提供や市民活動団体への活動場所の提供にとどまるのではなく、「市民の主体的な活動を支援する」ことがセンターの役割であることを常に念頭に置きながら、各センターの強みを活かし、それぞれの地域が抱える課題解決に向けて、施設利用者や地域住民を巻き込んだ事業の企画・実施に取り組んでいただきたい。

また、各センターにおいて地域とつながり、交流・協働の取組を進めるに当たり、地域ニーズの把握や課題の解決に努めていただくとともに、事業の実施に課題のあるセンターにおいては、市民の身近な存在である区役所・支所、まちづくりアドバイザーへの相談や連携についても積極的に進めていただきたい。

京都市による交流の場の提供や市民活動総合センターのノウハウを活かした事業の企画・実施に向けた支援も検討いただき、センター間での連携・協働による事業について、親睦を目的

とした交流に留まることなく、今まで以上に積極的に取り組んでいただきたい。

イ 市民活動活性化事業について

市民活動の更なる活性化に向けて、次の５点に留意し取り組んでいただきたい。

- (ア) 事業の実施に当たり、企画段階から、センター利用者、地域の各種団体、事業所、NPO、大学、区役所・支所等の他団体との連携を図るなど、各センターが得意分野を軸としながら、多様な団体とのネットワークを構築することで、市民活動の基盤や土壌を広げていくことを期待する。また、ウィズコロナに対応するために、開催形式や事業規模に係る工夫や対策を検討していただきたい。
- (イ) 各センターや市民活動総合センターとの連携・協働を更に積極的に進め、事業を実施するうえでの経験や知識の共有を図るとともに、新たな視点からの事業の展開、センターに代わって事業を主体的に実施することができる人材の育成に取り組んでいただくことを期待する。
- (ウ) 例年実施する大規模なイベントについても、イベント当日に多くの参加者を得るだけでなく、幅広い世代の参加者同士をつなげるとともに、その参加者が新たな担い手として市民活動の活性化や次の担い手の育成に取り組むといった好循環の構築につながるような取組を進めていただきたい。
- (エ) 事業の実施後は、次回開催に向けた課題や解決策の検討、利用者ニーズの把握を事業の参加者や様々な施設利用団体と共同で行い、次の事業展開につながるよう取り組みを進めていただきたい。
- (オ) 活動団体に発表の場を提供するだけにとどまるのではなく、地域の実情や課題を把握し、それらの解決に向けて、地域の担い手や人材の発掘、育成並びに活動団体への後方支援などに力を入れていただきたい。

ウ 情報の発信について

施設案内パンフレット及びホームページによる情報発信だけでなく、広報誌、掲示板、回覧板、各種SNSなど多様な媒体を活用することで、より多くの方に情報が届くよう努めるとともに、発信内容についても、更新頻度を高めていただき、常に最新の情報を提供することを心掛けていただきたい。

チラシやポスターなど印刷物の作成に当たっては、みやこユニバーサルデザイン等を参考に、誰にでも見やすい紙面にするとともに、センター利用者の顔や活動内容が見えるようにすることで市民活動への関心を引くデザインとするなど、様々な工夫をすることも心掛けていただきたい。また、事業の実施に当たっては、各事業のターゲット層に合わせて適切な発信方法を選択するとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出自粛が求められる中においても、各メディアによる効果的な情報発信が、市民活動の更なる発展につながるよう取組を進めていただきたい。

エ 業務執行体制について

業務及び財務監査の指摘を踏まえ、特に次の２点について確実な実施を求めるものである。

- ① 公金収納業務については、概ね適正に行われているが、誤った処理が一部見受けられ、同じ誤りが繰り返し発生していることもあるため、今一度マニュアル等を確認し、複数の職員による照合をするなど、丁寧・確実な処理に努めていただきたい。

② 職員の配置については、概ね問題なく行われているが、引き続き、執行体制の遵守を徹底していただきたい。

また、指定管理者は、施設管理運営の適格性があるものとして選定されていることを自覚のうえ、協定・仕様書を遵守し、必要な改善を行い、遺漏のないよう確実に取り組んでいただきたい。

なお、京都市は、今後も継続して監査を実施し、適正な業務や管理が維持されるよう指導していく必要がある。

オ その他

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて取り組んでいる京都市の地域における最前線の公の施設として、各センターの管理運営や事業の企画に当たっては、パートナーシップを軸に、健康、福祉、教育、男女共同参画、環境、経済、交通、防災、地域コミュニティの活性化など様々な観点を意識した取組を積極的に推進していただきたい。

また、イベント等の開催に当たっては、京都市の「エコイベント」として登録し、ガイドライン等に沿って実施するように努めていただきたい。

4 評価委員

中井 歩（京都産業大学法学部教授）＜委員長＞

東郷 寛（近畿大学経営学部経営学科准教授）＜副委員長＞

伊豆田 千加（特定非営利活動法人子育ては親育て・みのりのもり劇場理事長）

重野 亜久里（特定非営利活動法人多文化共生センターきょうと代表）

鈴木 ちよ（市民公募委員）

土江田 雅史（公認会計士）

5 開催経過

（1）令和2年度 第1回

日 時 令和元年6月25日（木）～7月7日（火）

場 所 事務局の持ちまわりによる審議

内 容 令和元年度市民活動総合センター事業報告

令和元年度いきいき市民活動センター事業報告 他

（2）令和2年度 第2回

日 時 令和2年8月17日（月）14時～

場 所 ひと・まち交流館 京都

内 容 令和元年度市民活動総合センター評価報告案の検討

令和元年度いきいき市民活動センター評価報告案の検討 他

＜参 考＞ 令和元年度市民活動活性化事業一覧

	事業	内容
北	楽し夏まつり2019	地域団体や利用団体, NPO, 大学等様々な団体に呼びかけ, 共同で企画・実施する夏まつりを開催することで, 学区内外の交流を促進し, 活気ある地域づくりに繋げる。 今年度は, 伝統的な盆踊りを現代風アレンジを加え, 祭りの中心にすることで, 地域の伝統や郷土愛を共有する。
	まちあるき映像企画	北いきセン及びその周辺で活動する団体等や, 北いきセン周辺で行われているイベント, 歴史ある場所, おもしろスポットにフォーカスを当てて, 紹介・探索する映像を制作する。 また, その映像を発信し, 北いきセン周辺の魅力等を広報することで, 関心を持った市民の活動等の促進を図る。
	RAKUSHI Farewell Ceremony (新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	センターの利用団体がステージ発表を通じて, 新たな移転先である楽只小学校跡地に馴染みを持ち, 各地域団体とのネットワークを広げる。 「北区の子育て・人権・福祉・芸術の拠点」として生まれ変わる楽只小学校跡地において, 学区民だけでなく周辺の北区を中心とした人たちと共に過ごし発信できるイベントを実施する。
岡 崎	市民活動支援事業 「レコードを聴く会 2019 前期」	市民の方々に寄贈いただいた楽譜やレコードを使用し, 市民企画によるレコードを聴く会を実施する。
	文化芸術交流・連携 事業「社会包摂とアート シンポジウム」	京都で障がいのある人の分解芸術活動の普及を支援するために, 芸術団体の社会包摂活動に関する先進事例の紹介し, 現場での取組を広く伝える。
	地域連携・交流事業 「ガーデン倶楽部6」)	大学生や利用者, 地域住民と共にワークショップ形式でセンター周辺のランドスケープ(景観等)について考え, 地域にとって居心地の良い空間を作る。
	市民活動支援事業 「市民活動育成 ～チラシ講座～」	企画したイベントを周知するには, どのようなチラシをどのように作成すればいいのか, チラシ講座で, 見る人にうまく伝達できるチラシの作成方法を学ぶ。
	市民活動支援事業 「岡崎いきセンサークル 紹介月間」	左京区民ふれあい祭りにおいて市民活動団体の活動紹介を行うことで, 岡崎いきセンにおけるサークル活動の広報及び活動の活性化を図る。
	市民活動支援事業 「市民活動育成 ～イベント企画～」	企画運営の支援, イベントの企画運営に興味のある利用者やサークルを募集し, イベントの企画立案, 助成金申請等のアドバイスを行う。

岡 崎	大学学生連携事業 「岡崎ワールドミュージックフェスタ ワークショップ」(台風の発生により中止)	ロームシアター京都, NPO 法人, 大学, 近隣公共施設と連携し, 子ども向けのワークショップを実施する。 関係機関との連携を深めるとともに, 地域住民の交流の機会を創出する。
	文化芸術交流・連携事業「リブリブライブ」	音楽をキーワードとして, 多様な人々が互いを認め合い, 受け入れ合える社会のあり方について考える。
	地域交流連携事業「音の庭ミュージックミーティング」	利用者を中心とした楽器, コーラス等の発表を行い, サークル同士の交流を促すことで出会いの場を創造し, サークル活動の活性化を図る。
	市民活動支援事業 「レコードを聴く会 2019 後期」	市民の方々に寄贈いただいた楽譜やレコードを使用し, 市民企画によるレコードを聴く会を実施する。
	地域連携・交流事業 「わいわい文化祭」	自治連合会と共同して, 歌や踊りの発表など地域の文化祭を実施することで, 地域への関心を持つきっかけをつくる。 京都市国際交流会館で実施することにより他地域からの関心を誘い, 岡崎地域の更なる発展に寄与する。
	地域交流連携事業「コミュニティ合唱団」	地元の知的障がいを持つ方と一緒に合唱することで, 障がい者や障がい施設への理解を深めることを目的とする。また, 岡崎地域と施設の新たな地域ネットワークの形成を図る。
	地域交流連携事業「まちづくり活動紹介冊子」	岡崎学区やセンター周辺で, まちづくり・人づくりの活動事例を取材し, インタビュー記事としてまとめたうえで, 小冊子として発行し, 市民活動への参加を促進するきっかけづくりを行う。
	岡崎いきいき市民活動センター 文化芸術交流・連携事業「社会包摂とアートシンポジウムⅡ」(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	東京都の障害児者総合支援施設の取組事例等を紹介し, 文化芸術を通じた社会包摂の可能性について議論を深め, 広く市民に向けて社会課題への関心を引き出す。 また, 音楽療法を用いたワークショップを実施する。

左 京 東 部	近隣地域との交流促進事業「復活！錦林盆踊り大会 2019」	以前は地域で大変な盛り上がりを見せていた盆踊りを、地域の高齢者や若い世代、ミュージシャン等が連携して盆踊り大会を復活させ、地域住民と参加者等との連携を深める。
	地域活動の担い手育成プロジェクト「盆踊り練習会とさきょう音楽会」	地域貢献型の地域楽団の育成を通じて、盆踊り大会など地域行事を支えるボランティアとして活躍してもらうことで、世代間交流の担い手づくりや、地域活動参加へのきっかけづくりを行う。
	芸術活動を通じて親子がふれあい、創造する喜びを分かち合う事業「へんしんコスチュームでカーニバル」	左京東部と連携して、小学校低学年の児童とその保護者を対象に、親子向けアートワークショップを実施することにより、センター利用者同士の交流促進や認知度向上を目指す。
	多文化共生促進事業「多文化共生について日本語で話そう」	日本在住の外国人やその支援を行う団体、留学生を交え、多文化共生を促進し、アイデアを出すためのワークショップを開催し、国際交流の促進や多文化共生を進める市民活動の広がりや立ち上げのきっかけ作りを行う。
左 京 西 部	高齢者への食事支援を通じた居場所作り事業	高齢者の食事支援を行いながら、交流の場を作り、地域の助け合いの機運を育む。
	高齢者への聞き取りを通じた、多世代交流事業	「回想法」の手法を用いて聞き取りを実施し、冊子や展示物にまとめる、大谷大学や左京東部・左京西部いきセンで展示を行う。
	いきいきワークショップフェスティバル2019	センター利用団体・個人の活動を実際体験するなどにより、利用団体・個人の活動を知ってもらうために、ワークショップフェスティバルを開催する。
	芸術活動を通じて親子がふれあい、創造する喜びを分かち合う事業	左京東部と連携して、小学校低学年の児童とその保護者を対象に、親子向けアートワークショップを実施することにより、センター利用者同士の交流促進や認知度向上を目指す。
	高齢者の健康や生きがいづくり事業	高齢者向けのワークショップを実施し、高齢者の居場所作りのきっかけを作る
	地域住民及び多世代交流促進事業2019『ようせい夏まつり2019』	一昨年度およそ 20 年ぶりに復活した夏祭り(ようせい夏まつり)を、地域住民、近隣の学校、商店街等と連携して発展させ、地域住民と参加者等との連携を深める。

中 京	中京いきいき体操教室	地域介護予防推進センターの協力を得て、高齢者ふれあいサロンを活用し、高齢者向けの体操を行うことにより、主に高齢者が気軽に集え、交流する場を提供し、地域活性化に繋げる。
	中京いきいきカフェ	高齢者ふれあいサロンを活用し、高齢者向けの体操・映画を上映することにより、主に高齢者が気軽に集え、交流する場を提供し、地域活性化に繋げる。
	中京のびのびサロン	子育て中の保護者を対象に講習や相談会を開催し、センターの認知向上や参加者同士の交流促進を目指す。
	はっぴーこどもの楽園	ボランティア団体と連携し、学校や家庭では体験できない内容で開催することにより、子供たちの居場所づくりを目指す。
	冬のいきセン発表会	センター利用者や市民活動団体が日頃の活動の紹介や成果を披露する発表会を行うことで、団体支援や団体同士の意見交換や交流の場を創出する。
	あかしやふれあいまつり	施設利用者等の発表などを通して、地域と参加団体との交流・親睦を深め、各種団体の活動の活性化に繋げる。
東 山	メディアセンター事業	映像を通じて、まちのトレンドや課題など、東山の過去・現在・未来を可視化し、広く発信する。また、映像を題材に対話の場を設けることで、新しい市民活動の担い手の創出を目指す。
	まちの担い手発掘・発信事業	地域に開かれたセンターづくりと、まちの新たな担い手創出と発掘を目的に、市民ひとりひとりが持つ知識や経験を発信し、社会課題を議論し、行動を起こす場を創設する。 ①みんなの学校ごっこ in 東山 2017 ②まちあるき ③市民活動ことはじめ事業
下 京	市民活動スタートアップ・サポート	下京いきセンにおいて利用者や地域住民と協働で企画するイベントや展示会を行い、自立的にまちづくりに取り組んでいく市民へと人材育成を図る。
	下京市民活動情報誌・web サイト制作発信事業	下京区内の社会公益活動について、情報誌や web サイトを通じて発信し、市民団体の参画への意識を高めるとともに、いきセンと市民団体とのネットワークを構築する。
	連続講座「Dive-In SHIMOGYO ～ダイバーシティで地域社会を変える～」	連続講座(3回)を実施し、地域の課題解決を行っている実践事例の紹介や、ワークショップを行うことで、まちづくりにおける多様な主体による包括的な課題解決アプローチの重要性について認識を深め、その実践方法を学ぶ。 また、下京区には多くの公益活動団体があり、本講座を通じて、活動団体間のネットワーク形成を図り、ともに取り組んでいく意欲を高める。
	市民活動スタートアップ・サポート2	下京いきセンにおいて利用者や地域住民と協働で企画するイベントや展示会を行い、自立的にまちづくりに取り組んでいく市民へと人材育成を図る。

吉祥院	夏休み六斎工作教室	地域の伝統芸能「六斎念仏」の保存継承を図るための取組を実施する。 ①六斎念仏の歴史に関する講座, 太鼓・笛などの実演, ②六斎念仏に関する工作教室(獅子頭の作成)
	ふれあいサマーフェスタ	地域の各種団体が連携し, 模擬店や各種行事を行うことで, 住民相互の交流の場を作り, 近隣住民を巻き込んだ活性化を目指す。
	第21回吉祥院ふれあいジャンボリー	地域団体が連携して実行委員会を作り, 各種団体の活動発表やステージ, 模擬店などを実施するフェスタを開催することにより, 地域の交流やネットワークの構築を図る。
	秋の音楽祭 2019	地域の人々招いて催す音楽祭を開催することにより, 地域の交流やネットワークの構築を図る。
	第7回ふれあいひろば	センター利用団体等が日々の取組や活動を発表する展示ブースやステージ公演, ワークショップ等を実施することで, 団体同士の交流を図り, 活動の幅を広げる。
上鳥羽北部	いきいき絵本クラブ	絵本を通じて参加者同士が交流を深める場を創出するとともに, 児童館や保育園などで絵本の読み聞かせ会パネルシアターの上映を行うなど, 参加者の活動の場を広げる。
	いきいきエコ講座 第4弾	地域を巻き込みながらエコ意識を高め, 人と人を繋げる事業を実施する。 ①おひさまウィーク, ②エコたいけん, ③クールシェアスポット, ④資源ごみ回収, ⑤ロケットストーブ
	おひさまカフェ	音楽を聴きながら, 参加者が音楽や地域のことなどを自由に語り合える場を提供することにより, 参加者同士の交流や輪を広げ, 今後の活動のきっかけづくりに繋げるとともに, センターの認知度も高める。
	いきいき上鳥羽プロジェクト Act.3	地域の各種団体と連携し, 各種行事を行うことで, 子どもから大人まで幅広い世代の交流の場を作り, 地域の活性化を目指す。
	上鳥羽夏の夜市	地域の各種団体が連携し, 模擬店や各種行事を行うことで, 住民相互の交流の場を作り, 近隣住民を巻き込んだ活性化を目指す。
	かみとば「オータムコンサート」	いきセンに関連する音楽団体等が出演し演奏することで, 音楽を通じた地域内外の交流を深める。
	吉祥院いきいき市民活動センター「ふれあいひろば」へ参加しよう	吉祥院いきセンとパートナーとなり, 意見交換などを行いながら事業協力し, 両センターの連携, 新規利用者の獲得などを図る。
	上鳥羽春まちフェスタⅢ (新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	上鳥羽南部いきセンと合同で, 上鳥羽地域の活性化を目指した地域交流イベントを行うことで, 各センターの認知度も高める。

上 鳥 羽 南 部	上鳥羽春の地域交流フェスティバル	地域団体、利用団体、大学等、地域が一体となって連携し、上鳥羽地域の活性化を目指した交流フェスティバルを行うことで、センターの認知度も高める。
	紫陽花ふれあいサロン 広場	楽器演奏や健康体操を実施し認知症予防と交流を深めながら、サロンの認知度を高め利用を促進するとともに、南部いきセンの事業を知ってもらう。
	いきいき夏祭り	舞台発表や模擬店、盆踊りなど、夏祭りを実施することにより、地域の交流の輪を広げ、地域コミュニティの活性化を図る。
	第3回上鳥羽南部 秋のサークル交流会	日頃センターを利用しているサークルや団体の発表会を行うことで、利用団体同士の交流やセンターの周知に繋げる。
	上鳥羽をもっと知ろう会 パート1	子どもたちに上鳥羽地域における過去の水害事例について紹介することにより、水害被害の歴史について学ぶとともに、高齢者との世代間交流を図る。
	フラワーアレンジメント & 楽気(らっきー)クリスマス会	地域の活性化や交流の輪を広げるため、児童館や大学生と連携したクリスマス会や、センター利用団体によるフラワーアレンジメント体験講座等を開催する。 ①フラワーアレンジメント ②楽気(らっきー)クリスマス会
	ウィンターふれあいサロン 広場	楽器演奏や音楽療法などを通じて地域の交流の場を提供し、センター及びサロンの認知度を高め利用を促進する。また、公募により出演者を募ることによって、活動の場の拡充を図る。
	オータムミニコンサート & 山ノ本児童館まつり	児童館と連携してミニコンサートとお祭りを開催し、地域住民との交流・親睦を図る。また、保護者や関係団体とも連携・協働し、住民に活動できる場を広く提供する。
	上鳥羽春まちフェスタⅢ (新型コロナウイルス感染 拡大防止のため中止)	上鳥羽北部いきセンと合同で、上鳥羽地域の活性化を目指した地域交流イベントを行うことで、各センターの認知度も高める。
久 世	民謡・日本舞踊鑑賞会	地域団体や利用団体の協力のもと、高齢者ふれあいサロンで、民謡・日本舞踊鑑賞会を行うことにより、地域団体・利用団体の支援や高齢者ふれあいサロンの認知度・利用促進につなげる。
	いきいきサマーフェスタ	児童館と連携して、サマーフェスタを開催することで、地域交流・活性化に繋げるとともに、参加する親子同士の交流・親睦を深める。
	ふるさと久世・地域交流 フェスティバル	地域自治会、地域団体、NPO 法人等の協力の下、実行委員会形式でのフェスティバルを開催することにより、地域の活性化や多世代交流を図る。
	クリスマス会	保育所や児童館と連携し、地域住民や利用者との交流・親睦を深め、センターの認知度向上に繋げるため、クリスマス会を開催する。
	しめ縄フラワーアレンジ メント	センター利用団体の活動を体験講座(フラワーアレンジメント)として開放し、活動の活性化に繋げるとともに、センターの認知度を高め、利用促進に繋げる。

久世	いきセン祭り	センター利用団体が実行委員となり、作品展示や体験講座、もちつき大会等を実施することで、利用団体の活動支援や交流・親睦に繋げる。
	ふれあいサロン祭り	高齢者ふれあいサロンにおいて和太鼓演奏や音楽療法講座を実施し、地域の方や利用者に対する高齢者ふれあいサロンの認知度の向上を図る。また、子どもから大人まで参加できるようにすることで、多世代交流につなげる。
醍醐	サークル活性化事業	センター利用団体等の発表の場の提供やサークル団体立ち上げをサポートする。 ・だいごいききフェスティバル ・NuiNui 工房出張版 ・真夏の夜の音楽祭
	多世代・地域つながり事業	親子で作家できるイベントや季節に応じた手作り体験を実施する。 ・伏見～るかるた ・手作り体験 ・北醍醐大作戦2・座敷音頭大会 ・いっしょにあそぼう
	健康長寿事業	福祉機関と連携しながらの事業や高齢者ふれあいサロンを活用した事業を行う。 ・だいごトレジャーハンター ・だいご de オレンジカフェ ・だいごいききサロン ・壺穂の部屋 ・和室 de ピンポン
	人材発掘・育成事業	地域で活動されている人や活動を発掘、発信し地域活性化へつなげる。 ・だいご夜カフェ ・ふらっと相談カフェ ・わたしたちの第一歩 ・だいご縁づくりプロジェクト ・地域フィールドワークプロジェクト
伏見	シニアの居場所づくり事業	市民活動団体や学生団体と連携しながら「シニアの居場所づくり」を実施する。 ①参加者が主催して実施する「〇〇さんの日」 ②センター利用団体とシニア世代をつなげる活動
	大学生がつくる子ども居場所づくり事業～子どもの想像力をつくるお化け屋敷～	伏見区役所や児童館、市民活動団体等と連携し、地域課題の一つである「子どもの居場所づくり」を行う。 連携している学生団体を中心となったお化け屋敷の実施により、子どもたちがセンターの多様な取組に興味を持ち、参加者としてだけでなく運営側に関わる子どもたちを生み出す。
	地域の緑化事業～コミュニティ・ガーデン～	高齢者ふれあいサロンの庭先スペースを活用し、高齢者を中心としたコミュニティ・ガーデンを実施する。世代間交流のきっかけづくりや相談を持ち込む場として提供する。
	伏見しみん大学	区内で活動する市民活動団体や学生団体がさらに活動を進めていくために、社会の様子を知り、情報を共有する学びの場をつくる。
	子どもの居場所づくり事業	「地域探求」をテーマに子どもたちの気づきを大切にしながら、「放課後学習室フリスク／スタディワン」及び「ローカルシッププロジェクト」を実施し、子どもたちの居場所づくりを行う。